

## 「中学校3年生数学」

全国と県の平均正答率をわずかに下回りました。三角形の合同条件に関する証明問題で、証明に必要な条件を問題に応じて考える力、条件を利用して説明する力を付けることが課題です。基礎・基本の一層の定着と、学習活動で生徒が考えて表現したことの適否を、生徒自身で判断する活動を取り入れることが必要です。

## 「中学校3年生英語」

本年度から初めて英語の調査が実施されました。全国平均正答率をわずかに下回りましたが、ほぼ全国、県の平均正答率と並びました。「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の平均正答率は、全国、県とほとんど差がありませんでした。「英語の音声メッセージを聞いて、それについてアドバイスを書く」問題や「食糧問題の英文を読み、その問題について自分の考えを書く」問題では正答率が低く、回答しない生徒も目立ちました。聞いたり読んだりしたことについて、自分の考えや意見を話したり書いたりする学習を取り入れていくことが必要です。

### 2 国語、算数(数学)、英語に対する意識

(単位：%)

国語、算数(数学)に対する意識		小学校			中学校		
		市	県	全国	市	県	全国
国語の勉強が	好き	64.3	69.4	64.2	65.1	63.7	61.7
	大切だと思う	89.9	94.7	93.0	91.4	92.1	91.0
	内容はよくわかる	82.5	90.5	84.9	78.8	82.0	77.6
	役立つと思う	86.3	93.0	91.2	88.9	89.2	88.0
算数(数学)の勉強が	好き	63.7	67.4	68.6	50.5	59.2	57.9
	大切だと思う	92.1	94.6	93.7	81.0	85.8	84.2
	内容はよくわかる	78.8	85.4	83.5	69.3	78.0	73.9
	役立つと思う	91.0	93.6	92.5	70.9	78.5	76.2
英語の勉強が	好き				55.7	55.5	56.0
	大切だと思う				87.2	85.4	85.4
	内容はよくわかる				68.4	68.2	66.0
	役立つと思う				89.8	85.1	85.4

国語は、「好き」の割合が小学校・中学校とも全国を上回りました。しかし、県と比べると小学校ほどの設問も大きく下回っています。その差が平均正答率に現れていると考えられます。中学校では、「内容はよくわかる」の割合が県を下回りました。

算数(数学)では、平成30年度より「好き」の割合が児童・生徒とも増加しました。(平成30年度小学校61.0%、中学校48.9%)「内容はよくわかる」については、全国と県を大きく下回っていました。令和元年度(平成31年度)は、学習課題の提示から学習の振り返りまで、児童と生徒にとってわかりやすい授業に努めています。

英語では、全国と県を上回っているものが多く、特に「役立つと思う」の設問が90%に近い割合を占めています。令和2年度から、全国の小学校で「外国語」の授業がスタートします。市では10年前から「国際科」事業を先行して進めてきました。これからも英語に関心を持てる取組みを進めていきます。

### 3 今後の課題

全国と県に比べて学力・学習状況調査結果が下回っています。このことを大きな課題として学力向上に向けた取組みを充実させる必要があります。

令和元年度(平成31年度)から採用された学力・学習状況調査の問題形式は、基礎・基本的な学力を活用して応用問題を読み解く内容になっています。また、読み取りに時間がかかる長文問題、設問の中に複数の問題が設定されている問題、自分の考えや理由を書いて説明する問題が多くなっています。

今後は、基礎・基本的な学力を確実に身に付けること、長い文章を読み解く力や自分の考えを表現する力を伸ばしていくことを課題として取り組んでいきます。そのためには、家庭学習や読書習慣を日々の生活に定着させることが大切です。